



カトリック町田教会  
町田市中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



ホザナ。主の名によって来られる方に祝福があるように。  
我らの父ダビデの来たるべき国に祝福があるように。いと高きところにホザナ。

(マルコ 11・9-10)

創立五十周年記念に臨んで

主任司祭 高木 賢一

私たち町田教会は、九月二十八日・日曜日の第二ミサにおいて、岡田大司教や歴代の主任司祭である川原神父、宮内神父、また大倉神父を、そして浦野神父をお迎えして、さらには、四百名以上にもおよぶミサの参加者の方々と創立五十周年を祝いましたが、心をひとつにして、記念の祝いに臨むことが出来たと思いません。

それは、聖体拝領の後、少し沈黙の時間をおいて、岡田大司教が拝領祈願を唱える前に、みんなで歌った「ガリラヤの風がある丘で」のまとまり具合のよさに、如実に現れていたと言えるからです。

参加なさった皆さんは気づかれたかどうか分かりませんが、歌の最初の方はうつつむいていた岡田大司教が、その場の歌声の大きさに、しかも、まとまって調和のとれた歌い方にびっくりして、恐らく聖

堂にいた全員で歌っているとは思えず、かといって、特定の人たちだけが歌っているとも思えず、一瞬、目を上げて確かめていたのを、臨席していた私・高木は確かに目撃していたのです。

また、心尽くしの料理の持ち寄りも、同様です。

関わるうとする人たちがみんなが手軽に作れて持ち寄れる、そして、自分たちは何をしようとしているのかを見失わずに、心をひとつにして祝おうという気持ちの現れた料理内容だったからです。

本当に、教会らしい祝い方だったと思います。

大司教を呼んだり、歴代の主任司祭を呼んだりしながらも、単に物的な豪華さだけにとらわれていたなら、教会が行う記念行事とは言えず、市井の徒が営む団体のパーティーの域を出ない印象に終始したことでしょ。

そこには、何の精神性も、何の霊性も見られない、唯々、体面だけを気にして、ともに祝うことを忘れた、それこそ趣味の悪いフーガの大音響よろしく、俗物的な発想が「とぐろ」を巻くだけの時間になったことでしょう。

あの合唱の歌声や持ち寄りの料理は、少なくとも私には、それぞれの思いを持って歩み

続ける私たちが、キリストを中心にひとつに集まっている、という教会共同体の在り方を目に見える形で再現したように思えた瞬間であったのでした。

ところで、第二バチカン公会議の公文書の中に、日本語で「現代世界憲章」という題名の文書がありますが、その序文の第一項では、全人類と教会との深い連帯性」という表題の文章が述べられています。

ここに、現代の教会の基本的な姿勢が窺えるとも言える訳ですが、この「深い連帯性」という言葉によって表される「ともに歩む」という姿勢は、教会の内側に留まるものではなく、私たち一人ひとりが生きる社会に向けて開かれているということ、私たちにあらためて喚起していると言っ

てよいでしょう。

即ち、単純に私たちの価値観を押し付けるのではなく（もし押し付けるならば、それは連帯とは言わないでしょう）、イエズスがその生涯を賭けて示し続けた、人間が根源的に宿している絶対的な重さ（それは真摯な宗教であるならば、必ず辿り着く教えだと言えるでしょう）が、その共通の、しかも根源的な基盤に立って、ともに歩もうとする姿

勢を思い起こさせることなるからです。

それはしかし、何も決して真新しい在り方なのではなく、イエズスがこの世に人となつて現れた瞬間から、この深い連帯性は示されていたと言えます。

その最も深められた出来事が、十字架の上で苦しむイエズスの姿であったと言えるでしょう。また同時に、そのイエズスの苦しむ姿は、そのま

ま、父である神の思い、即ち人間と深い連帯を持つ意志を端的に表す姿であったということになります。

因みに、プロテスタントの神学者であった北森嘉蔵の唱えた「神の痛みの神学」や遠藤周作が描き出そうとしていた「弱々しいイエズスの姿」は、まさに、そういった「深い連帯性」という言葉に相通じるように思います。

これからも、「ともに歩む」という姿勢を組織の内外に示すことで、教会が、この「神が人となった」という神秘をまたその真の意味を伝える存在であり続けるようにと願って止みません。

今月号は献堂五十周年記念特集のため、増頁しました。(3&4ページ参照)

運営委員会

五十周年を乗り越えて

運営委員会議長 前田 充

去る九月二十八日「献堂五十周年記念ミサ・祝賀パーティー」が、和やかな内に無事終了した。

当日のごミサの中では、皆なで歌おう五十周年」の壮麗で力強い歌声が響きわたり、その後の「ミニ・パチカン展」「リンカーズ演奏会」、そして今後予定される「ホームカミング・ミサ」、更にはまた、有難くも完売した「五十周年記念絵葉書の販売」等々、幾つかの「五十周年記念企画」に、本当に多くの方々の知恵とパワーを頂戴した。ここに改めて、そのご尽力に感謝するとともに御礼を申し述べたい。本当に有難うございました。

さて、未だ「五十周年記念企画」全てが実施された訳では無いのだが、ここで主題となる「運営委員会」に立ち戻りたい。「運営委員会」を述べるにあたっては、一言「了解を得ておきたいのだ。現在、「新規約作成小委員会」他各委員会・グループ等で、「新規約策定」のため、その内容について検討の最中と思われる。その中身に「運営委員会」の項も当然あり、これから私が記していく意見と異なる部分も、少なからず有るかも知れ

ません。以降は「前田の私見」であります。ご寛恕下さい。

私は基本的に「町田教会の組織」は、以前の「ヤコボ委員会」の組織に戻るべきだと感じている。記憶は不正確かも知れないが、会長が一名、副会長が二名、総務一名、書記一〜二名、役員で、二年毎に改選で再任あり(間違っていたらお許し下さい)。そして、典礼・財務・福祉他各委員会からの代表者が、毎月一回の「ヤコボ委員会」に出席し、教会の枢要事項・行事等を討議決定する。言うまでもなく、役員は前述の会長他五〜六名であり、現在の十名を越える運営委員数よりずっと小規模のユニットだ。そして「ヤコボ委員会」の構成員も「典礼」他の各小委員会からの代表者が出席して構成される。現在の運営委員会の組織立てにならば、例えば「地域ブロック」や「活動グループ」の代表者が、月一回の教会委員会に、母体組織の意見を集約して参加する。現在の運営委員会の形のように、担当の運営委員が各小組織に向いて行くよりも、余程自然だと思っただが如何だろうか。

(5ページに続く)

## 分がち合いの会

誰でも向んでも自由に話し合い、意見を出し合う。考えも生き方も異なるが同じ信仰を持ち、「生きた教会」をめざす。自分の体験にもとづきありのままに本音で分がち合う会をルポ。(池永)

**司祭の講話と合わし合いに重点**  
(年3・4回 他の活動グループの企画参加も含め)

この日は  
Kさんの老いについて  
体験の分がち合い  
お祈りから始り、23人くらいの人  
分かちあつた。

随想集の  
ドムル人から  
神女に送られた  
詩「最上のわざ」  
をテーマに

ヘルマン・ホイヴェルス神女  
(1870-1977)  
どのような心で人はこの老境を  
あかざるべきでありましょうか?

「主のみ名を呼び求める人は助けられます」  
神を知る人はこの世の中でこれほど淋しくなりません。  
永遠の希望をもつてこの世の重荷を担うことが出来ます。

「最上のわざ」  
この世の最上のわざは何?  
愛の心で人を愛する  
働きは神に喜ばれ、  
心から喜ぶべきであり、  
失望しない希望を、  
従順に平和におのの十重をこなす。  
若者が元氣いば、神の道もあやむの道もあやむ。  
人のために働くよりも、神に愛されたい。  
弱くても、神に愛されたい。  
神の重荷は神の賜物。  
古びた心にこそ、最後の分がちあひをかける。まことの愛を心行くために。  
あかしの世の重荷を背負う。まことの愛を心行くために。  
この世の何を愛するべきか、何を愛するべきか、何を愛するべきか。  
神は最後には、神の愛を心行くために。  
手は何もできないけれども、神の愛を心行くために。  
愛する。愛する。愛する。神の愛を心行くために。  
愛する。愛する。愛する。神の愛を心行くために。  
愛する。愛する。愛する。神の愛を心行くために。

今日の活動  
「天徳にラヴンガ」  
音階についてQ&A  
山上の説教  
188人に向けて112  
(川村信三神女の講演会から)  
など...

感動  
信頼  
自由に  
めい  
伝える  
体験  
共々に味わう  
グループの人々を  
大切にしたい  
他神女  
口外しない!

聖書の導き  
聖書の集い  
聖霊の導き  
霊的成長  
発見  
現実  
分がち合い  
神がともにいてくださる

代表の  
加藤さん  
(専任者)

毎月第1日曜の第2サタ後  
集いは週報でお知らせ!  
分がち合つてみたいテーマを  
お持ちの方は お知らせください

支配するのは  
神の霊!

気をつけること

集いの場  
神の

議論  
批判  
口外

話が途切れたら  
ムリに  
話さない  
神が語り出し  
神  
語る  
神  
沈黙

# 献堂50周年の特集

五十周年企画・

準備小委員会から

鈴木 光

献堂五十周年おめでとうございませう。

小委員会では、記憶に残る企画と形に残る企画の二本立てで計画し、町田教会に集う人々が皆で参加できる企画を考えてみました。「皆で歌おう五十周年！」とし、ミサでは聖歌隊との四部合唱を、ポスター作りは中高生会に、会場飾り付けは教会学校の子ども達にお願いし、活動グループには自分たちの活動の様子などを町田教会内外の方々に知ってもらえるようにと、展示パネルを作成してもらいました。また、期間を来年三月末までとし、その間にいろいろな行事を行うことにしました。記念ミサに引き続き、南山教会の協力で、ミニバチカン展の開催、リンカースによるハンドベルミニ演奏会が行われました。また歴代主任司祭にホームカミングミサを依頼していますので、調整でき次第お知らせいたします。

けました。

短い準備期間でどれだけのことのできるのか、不安と焦りていつばいでしたが、皆様のご協力によってともに祝うことができました。神に感謝！

献堂五十周年お祝い

ヨゼフ会会長 新納 春雄

創設以降五十年の歩みを導き支えてくださった司教、修道者、信者の皆様、心から御礼を申し上げます。特に歴代の主任司祭の皆様へ感謝申し上げます。現在、町田教会は、成城教会、喜多見教会とともに多摩南宣教協力を形成し、三人の主任司祭により、さらに聖堂共同体同士の交流も進んでおります。

先ず、町田教会が今日まで発展したことに感謝申し上げます。たいと思えます。そして、私に耳にする町田教会についての評判は、結構良いのです。地域的には、よく東京の孤島と言われ、神奈川に囲まれています。それが自由に誰にでも受け入れられる教会として、多くの方が気安く立ち寄ってくれる教会となりました。音楽面やスポーツ、特にテニスの交流試合など、自然と周りの教会からの声もかかり

ます。

さる九月二十八日の『献堂五十周年記念ミサ』には、岡田大司教をはじめ、多数の神父様、町田教会から他の教会に移られた信者の多くの方々が参加され、一緒にお祝いできたことを感謝し、皆様に御礼を申し上げます。

これからも、町田教会をよろしくお願い申し上げます。

あの頃ーオルガンはあれど、弾き手無し

ベルナルド 橋本 昭男

一九五九年（昭和三四年）の秋、私は東京世田谷区成城教会より転入して参りました。以来四九年間、この教会にお世話になり続けて今日に至っております。

献堂一年後の旧教会は、何もかも新しく、白壁の聖堂は辺りで目立っております。

当時の呼称は原町田教会、主任司祭は、第二代川原謙三師、信徒数は約一五〇名弱で、顔と名前がほぼ一致する家庭的雰囲気濃い教会でした。

ただ困ったことに信者の中にオルガンの弾き手がなく、オルガンなしのミサに、たびたび淋しい思いをしたものでした。

もともと、当時厚木市の中学校で音楽教師を務めておられた島村先生が、ご自分の練習

になるからとてボランティアで来てくださったってはいたのですが、とても毎日曜日というわけにはいかず、しかも未信者ということもあってムリも言えなかったのです。

しかし、ありがたいことにその後ぞくぞくと有能な素晴らしい方々が入ってこられ、今日の隆盛となりました。かつて、入堂してすぐオルガン席を見やり、そこに弾き





手のいるかないかに一喜一憂していたあの頃を想うと、今は全く夢のような心地です。自信なく、おっかなびっくり歌っていたあの時代が今となっては懐かしい。

聖歌隊に乾杯！ 神に感謝

五十一年の節目に思いつ

水野貴久子

町田教会に迎えられてから日々を振り返ってみれば、それは子育てしながら自分も育てられた大切なとき、厳格な神から慈愛の神へ心が開かれた喜びのとき、信仰共同体の一員として自覚めたときでもありました。

ごミサの帰りに幼児四人と、線路沿いの道でタンポポや数珠玉を集めながら、電車に向かって聖歌を歌ったことを無性に懐かしく思い出します。

これは私たち家族の楽しい思い出の一つに過ぎませんが、ごミサは全く別次元の「記憶」です。躓いたり人を傷つけたり、寂しさやむなしさに弱りはてた時、抱きかかえてくださったのはキリストの共同体でした。海外でも同じ共同体に居る喜びを感じました。

今年、列福される殉教者たちの共同体が迫害下二七〇年間に私を深く感動しています。今日、私たちは迫害こそ受けていませんが、神も仏も在るものか」と言わせるほど愛に渴き、不信、不安、心配に満ちた社会に住んでいます。もし「共に生きてくださる」神がなければ、経済的利益最優先、人権無視の風潮に抗って生きてはいけません。

仕事場や家庭や学校で問題をかかえて独りで闘っている人たちに寄り添い、彼らの居場所を共に作る必要があります。キリストに倣って信徒が自主的に、それぞれのターゲットに働きかけている活動グループが三〇以上もあることは実に素晴らしいことです。司祭と信徒が協力して、いつでも、どこでも、誰とでも福音の喜びを分かち合えるよう、教会の扉を大きく開けておくことが大切だと、五十年の節目に当たって思います。

多くの方に支えられて

萩島 崇

献堂50周年おめでとうございます。記念日にあたる9月28日のミサで、祭壇にずらりと並んだ神父様方を見ていると、いろいろな思い出が甦ってきて、いろいろな思い出が甦ってきた。クルシリヨの錬成会に行くように勧めてください。教会の回りの何十軒もの家のポストに信仰に関するリーフレットを毎週配布して教会の外にも目を開かせて下さったのは宮内神父様だったし、山谷のホームレスの人への援助を教えて下さったのは大倉神父様だった。祭壇に姿は見えなかつたが、千葉、酒井、関根の各神父様にもそれぞれ思い出がある。浦野神父様に代表される助任神父様方にも大変お世話になった。私が初めて町田教会に足を運んだのは一九六三(昭和38)年春で川原神父様の時だった。神父様方の思い出と共に懐かしく思い出されるのは取り壊されてしまった古い聖堂である。窓ガラス一枚で外は道路なので、消防自動車が出動する時はお説教が聞こえなくなったりしたけれど、普段は落ち着いて祈れる雰囲気を持っていた。信者数は今よりも少

なく全員名前も顔も憶えることが出来た。オルガンは足踏みの小さなオルガンだったけれど、そのオルガンからごミサの時に美しい聖歌が流れていた。教会の過去を振り返ると、どうしても、一緒にミサにあずかったけれど今は亡きあの人、この人を思い出さないわけにはいかない。実に多くの方に支えられて今日の自分があるのだなあ、と実感させられるのです。

洗礼の恵み

O・ヨハンナ

イエズスさまは、なぜ、洗礼をお受けになったのでしょうか？ 不思議！

イエズスさまは、神さま。

イエズスさまは、人間。

人間は、原罪を洗い清めていただくために、洗礼が必要でも、神さまには、不要。

イエズスさまがヨルダン川で、ヨハネから洗礼を受けようとした時、ヨハネは驚き、畏れた。しかし、「今は、受けさせてほしい」と。

イエズスさまのお言葉に従い、聖霊が、鳩のように降って来る姿に接した。

今年、私は、母の死の床に佇む身となった。迷わず、臨終洗礼をさすけ、期せずして「栄光から栄光へと、私を変えてよ」と口ずさむ。



母の傷ついた腕も脚も、抜けるような白さになり、顔は、陶磁器のように輝き、薄茶色の瞳は瞬くように、口もとほほ笑むように、息をのむほどの美しさ。これこそ、主と同じ姿にまで変えられた女性の姿。化粧もせず、流行の服も欲しがらず、ただひたすら、夫に仕え、三人の娘たちと、なぐした一人の息子のために、心を砕いた女性。神さまの愛は、限り無い。だから、洗礼を受けなくとも天国に入れると言う人もある。しかし、イエズスさまが願って受けた洗礼には、何か人間の知恵では計り知れない奥義があるはず。愛のため、イエズスさまに倣って、洗礼の恵みを！ \*O・ヨハンナさんは五十年のこの年に帰天した母の死を通して、洗礼の恵みについての思いを寄稿されました。

ただ、「ヤコブ委員会」が年齢別・男女別を基本に組織立てていたのに対して、現委員会が地域ブロックを骨格とした組織立てにする方向にあることは、是とするとところでありませぬ。

今回のこの項では「教会委員の選出について」をテーマにしたい。

### 夏期学校

リーダー 本宮 智愛

今年の夏期学校は二泊三日で御岳山へ行きました。今回は成城教会の方と一緒にでしたが、子供たちはうまく打ち解けたようでした。

一日目は山を登って山荘まで行きました。その後、グループ名や班長等を決めてから、外でゲーム大会をしました。

二日目はロックガーデンへハイキングに行き、そこで川遊びをしたのち、自然の中で昼食をとりました。夜は成城教会の方と一緒にバーベキューやキャンプファイアー、花



火をやりました。

三日目は成城教会の方とミサを授かったあと、山を下り教会に帰りました。

特に何事もなく、みんな元気に帰ってくる事ができたので良かったです。

小二 山下 瑠花

八月一日から三日まで、夏期学校でみたけ山そうへ行きました。

私は、友だちとあそんだり花火をするのを楽しみにしていました。

一日目の山のぼりはすごくつらかったけど、のぼりきつた時はとてもうれしかったです。

二日目はハイキングで川に行ったり、ゲーム大会をやりました。みんなで楽しくあそびました。

夜はキャンプファイアーで、学年ごとに分かれ円になり歌ったりします。

私は「友だちっていいな」と歌っている時に思いました。

みたけ山そうにいた時、土曜学校でいつもあそんでくれるリーダーがこんなにはたら

いているなんて大へんなんだなと思いました。

山のぼりはつらいけど、来年もまた行きたいです。

### 小四 嶋田 めぐみ

八月一日から三日までみたけ山に行きました。朝九時に教会に集まってバスに乗りま

した。お昼前にたき本という所に着いて登山をしました。

一、二、三年生は大きなリュックをおろして、四、五、六年生は自分でリュックを持っていかなければなりません。

道のりはけっこうありますが、坂はそれほど急ではありませんでした。だけど私はと中で

大きなリュックをリーダーに持ってもらってしまいました。みたけ山そうに着いたときは、やっと着いたという気持ちでうれしかったです。

その日は班の名前を決めたり、ぼうたおしや二人三きや

などのゲームをしてすごしました。いつもは教会でしか遊ばない友達といっしょにお風呂に入ったり、夕食を食べたりして楽しかったです。

リーダーが食事を残させてくれなくて、ちよっと苦しかったです。

二日目は、ロックガーデンでハイキングをしました。天気はよかったですけれども、同じ

## ワンポイント聖書



(169)

前島 誠

安息日を守ってこれを聖別せよ。あなたの神、主が命じられたとおり、六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。

—— 申命記5章12〜14

ご存知のように十戒は、聖書で二度語られます。最初はエジプト脱出の数カ月後、次は約束の地カナンを目前にして語られたモーセの遺言においてでした。

二つのテキスト（出エジプト記20章、申命記5章）の内容はほぼ同一と見てよい。あえて違いを挙げれば次の二点です。

### 1 安息日遵守の理由——

- 創造の七日目、神の休息（出工）
- 奴隷状態から解放の記憶（申命）
- 2 第十戒・隣人の所有物リスト——
- 家で代表。次いで妻、僕の順（出工）
- 妻で代表。次に家、畑と続く（申命）

両者の間には、ほぼ四十年の時間差がある。1の理由変更は、砂漠で生まれた世代に解放の史実を伝える必要があったのです。違いの2は、定住地カナンでの生活様式の変化です。それは「畑」の登場でした。人々は畑を造って半農半牧の生活を営むことになりました。定住すると奥さんがデーンと腰を据える、所有物の代表としてランクされる。その変化が、申命記の条文に影響を与えたと思われませぬ。



## 中高生会 夏の錬成会

中一新 昇平

土曜学校の夏期学校が終わって少しして、錬成会がありました。夏の錬成会では、いつもとは違う軽井沢に行きました。また人数がとても少なく、リーダー以外は自分も合わせて二人だけでした。

軽井沢では桃狩りをしました。桃は固いのと柔らかいのがあつて、固いのは食べられませんでしたが、泊まった所では、リーダーも一緒にトランプで大富豪をしました。大富豪は夜遅くまでずっとしていました。

二日目は群馬サファリパークへ行きました。サファリパークでは白いライオンを見ました。他にもいろいろ動物を、普通の動物園よりも近くで見られて楽しかったです。



一日目にも小さな動物園みたいな所へ行ったので、この錬成会では沢山の動物を見ました。オランウータンとライオンの子供と一緒に写真を撮ったのが良い思い出です。

帰りの車の中でも、またトランプの大富豪をやりました。短かったけれど、とても楽しい二日間になったのでとても良かったです。冬の錬成会もどんなものなのか今から楽しみます。

### 犠牲献金

中高生会

8月10日	9,516円
(ベロニカ苑へ)	
9月7日	9,914円
(ベロニカ苑へ)	
10月5日	5,555円
(ベロニカ苑へ)	

「雷の子」次号編集会議予定

12月7日(日)09時30分

於会議室

編集スタッフ募集

「雷の子」の編集スタッフを募集しています。性別、年齢、経験の有無を問いません。教会の広報および機関紙編集に興味のある方、ぜひご参加下さい。右記の編集会議から始めてみませんか？

## 信者動静

2008年8月～10月

(個人情報のため、削除しています)